

令和5年度 第3回 小牧市健康づくり推進審議会 議事録

日 時	令和5年12月6日(水) 14時00分～15時20分
場 所	小牧市役所東庁舎 大会議室
出席者	<p><b>【委員】(名簿順)</b></p> <p>高野 健市 小牧市医師会会長  三輪 雅一 小牧市医師会副会長  竹内 友康 小牧市歯科医師会会長  堀尾 恭正 小牧市薬剤師会副会長  小島 英嗣 小牧市民病院副院長  夏目 有紀枝 名古屋経済大学人間生活科学部准教授  佐藤 史洋 小牧市立小中学校長会  土屋 一義 小牧市地区民生委員児童委員連絡協議会  平田 和代 保健連絡員役員  加藤 陽子 一般公募市民  中島 早織 一般公募市民  青木 翔太 地域包括支援センター  西尾 央 全国健康保険協会愛知支部  林田 賢 市内企業労務担当</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>三枝 尚子 保健センター 母子保健係長  森 里加 保健センター 成人保健係長  宮田 祐子 保健センター 成人保健係主査  永井 政栄 健康生きがい推進課長  岩下 貴洋 健康生きがい推進課 健康政策係長  小川 真波 健康生きがい推進課 健康政策係主査  前川 桂佑 健康生きがい推進課 健康政策係主事  田中 千月 健康生きがい推進課 健康政策係保健師</p>
欠席者	<p>3名</p> <p>寺本 圭輔 愛知教育大学保健体育講座教授  増井 恒夫 春日井保健所長  山田 勇 小牧市老人クラブ連合会副会長</p>
傍聴者	0名
配付資料	<p>資料1 小牧市健康づくり推進プラン(素案)  資料2 指標(案)一覧</p>
<p><b>1 開会</b></p> <p>(1) あいさつ</p> <p><b>2 議題</b></p> <p>(1) 小牧市健康づくり推進プラン(案)について</p> <p>高野会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1章から第4章までは、前回の会議で議論したが、お気づきの点はあるか。</li> </ul> <p>土屋委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料を読んでいると、多くの専門用語が使われており、このような用語は、市民の方に理解が難しいと考える。</li> <li>例えば、P1の「職域」には、※印を入れて説明をしているように、このように注釈</li> </ul>	

があると、市民には理解しやすいと思う。

**高野会長)**

- ・ ごもっともである。
- ・ たまたま P1 の「職域」のところだけは文末に※印で解説があるが、分かりやすい資料にすることは大事ではないか。

**事務局)**

- ・ 現行の計画には、計画書の最後に、用語解説をまとめている。
- ・ 本日の計画素案にはまだ入れていないが、計画冊子を作成するにあたっては入れていく予定である。
- ・ 最後に用語解説をまとめるか、用語が出てきたページに脚注をいれるか手法については相談させていただきたい。

**高野会長)**

- ・ 対応の余地はあるとのことで、対応をお願いしたい。

**三輪委員)**

- ・ 第3章の目標値の定め方について、目標が高ければ、達成が難しく、結果的に、評価も低くなるわけであるが、どのように目標値を定めているのか。
- ・ 例えば、P28「中学3年生の歯肉の炎症所見のない者の割合」について、目標が97.5%になっているが、実現可能な数値なのか。また基準値が97.0%で、直近値が73.6%と値が離れているのはどういう理由か。

**事務局)**

- ・ 目標値については、計画の策定時（平成30年度）の基準値をもとに定めている。
- ・ 直近値（令和4年度）が目標に到達せず、70%台になっているのは、この間コロナ禍でもあり、環境が整わなかったことが背景にあると考えている。
- ・ 指標については、歯科に限らず、各部会の中で委員にご意見をいただきながら設定している。

**高野会長)**

- ・ 基準値とは、平成30年の実際の数値という理解でよいか。
- ・ 目標値は基準値より高く、決して無理な数字ではないということか。

**事務局)**

- ・ その通りである。基準値は平成30年の実績値である。

**夏目委員)**

- ・ P24「朝食を毎日食べる人の割合」について、20歳以上の目標値は90%で、それ以外は95%となっているのはなぜか。
- ・ 基準値を見ると、小中高の基準値が88%で、20歳以上の基準値が87.4%で若干少なくはなるが差は少ない。
- ・ 20歳以上はライフスタイルの現状改善が難しいなどを考慮しての値なのか、背景を教えてください。

**事務局)**

- ・ ただいまの「朝食を毎日食べている人の割合」については、現行の食育推進計画を策定する際に実施したアンケート結果をもとに設定した数値である。
- ・ 今回は、より具体的にどの年代で朝食欠損があるかを分かりやすくするために、直近値を小中高に分けて記載したところである。
- ・ こうしたことにより、高校生が低い結果となっていることから、今後は高校生を含めた若年世代に届くアプローチをかけていきたい。

**夏目委員)**

- ・ 20歳以上の目標値を5%低く90%に設定したのは数字上の理由だけか。年代特有の背景の考慮はなかったととらえてよいか。

**事務局)**

- ・ すべての年代で朝食を食べることは望ましいことではあるが、本市としては、特に子どもの頃からの朝食を摂ることの習慣化が重要と考え、特に力を入れるべき層として、目標値を95%としている。
- ・ 20歳以上については、小中高よりも基準値の割合がやや低いこともあり、施策の展開も含めて目標値を90%としたものである。

**土屋委員)**

- ・ 直近値(R4)に比べて、目標値(R5)が低くなっているのはなぜか。

**事務局)**

- ・ ご覧いただいている第3章については、現計画の振り返りであり、目標値は現行計画の策定時に設定したものである。
- ・ 例えば、「朝食を毎日食べる人の割合」について、目標値は、食育推進計画を策定した平成29年3月に設定したものであり、直近値は令和4年度のアンケート調査の結果である。
- ・ 今回の計画の目標値については、現状値をもとに設定したい。

**高野会長)**

- ・ 第5章、第6章について議論を進めたい。

**加藤委員)**

- ・ 小牧市では、高齢者のフレイル対策として、介護予防体操「こまき山体操」に力を入れていると思う。私自身、こまき山体操のリーダーになってほしいと言われ、一生懸命取り組んでいるところである。
- ・ 資料1のP23「週1回以上こまき山体操を実施している団体数」という目標があり、平成30年が3か所で、令和4年が7か所に増えていた。これからどんなところで増やそうとされているのか方向性を教えていただきたい。

**事務局)**

- ・ 加藤委員に取り組んでいただいているのは、P67の行政の主な取組みに記載している、介護予防体操「こまき山体操」の実施に関する事項である。
- ・ こまき山体操は、小牧市リハビリテーション連絡会の協力のもと、本市の介護予防を推進するため、市公式キャラクター「こまき山」を参考に相撲の型を取り入れ構築された介護予防体操であり、現在、市内各地で取組みが広がっている。
- ・ 現状、地域にあるサロン80か所の一部のほか、老人福祉センター、コミュニティセンター、ふれあいセンターなどでは週1回の頻度で住民主体の取組みが展開されている。
- ・ 今後は、こうした取組みを更に広げていくため、保健連絡員、民生・児童委員の方々の協力を得て活動の展開を目指したいと考えている。

**平田委員)**

- ・ これまでは「きよしのズンドコ節」を保健連絡員の会議開催前やサロンで行ってきた。
- ・ 体操がいくつもあり、私の地域では両方しているが、どれを進めて良いか迷う。

**事務局)**

- ・ 「きよしのズンドコ節」は、平成17年に保健連絡員が、誰でも手軽に体操できるよ

うにと考えたものである。

- ・ 「こまき山体操」は、介護予防を目的に、筋トレの要素も加わった体操である。
- ・ 他にも、リズム体操や小牧市社会福祉協議会においては、ワンポイント体操なども作られている。
- ・ それぞれの目的にあうものや好きなものを、選んで健康づくりに活かしていただきたい。

**平田委員)**

- ・ 「きよしのズンドコ節」を長い間続けていると、子どもたちも一緒にやってくれるようになった。少しずつ年数が経てば普及してくるものだと感じた。

**土屋委員)**

- ・ 私の住む地域のサロンでも「きよしのズンドコ節」か、「棒体操」を交互にしている。
- ・ 南部コミュニティセンターでは、毎月こまき山体操を講師の方を呼んでやっているようだが、こまき山体操はあまり評判がよくない。実際にやってみると難しく、60代～70代にはいいが、80代、90代には少し難しいかと思う。

**中島委員)**

- ・ サロンや体操について、女性の参加者が多く、男性の参加者が少ない。
- ・ 主催者側に聞いても、男の人はなかなか動いてくれない、とよく聞く。男性が参加しやすい何かがあるとよい。

**事務局)**

- ・ 市や小牧市社会福祉協議会では、さまざまな取組みを実施しているが、男性の参加者が少ない状況は中島委員の言われるとおりである。
- ・ P66「生きがい促進支援の充実」にあるとおり、健康生きがい推進課では、シニアの生きがいづくりも担当しており、その取組みに向けて、小牧市社会福祉協議会や市民活動ネットワークなどと協議をする中で、男性の地域づくりへの参加について、取組みを検討しており、今年度、男性限定の講座をしてみてもどうかと協議しているところである。
- ・ 具体的には、実際にサロンやごみ拾い、NPO 法人を立ち上げられ、活動している男性を招へいし、その方の生の声を聞く機会を作り、男性の地域活動への参加に焦点をあてるような催しを考えている。

**竹内副会長)**

- ・ 歯科医師会では、来年度からいきいき世代個別歯科健診の中で、オーラルフレイルにも取り組もうとしている。
- ・ また、歯科医師会として、P46「学校との連携した歯の健康づくり」の給食後の歯みがき実施を強力に推進している。県内の学校では、ほとんど実施しているが、小牧市は1校も給食後に歯みがきをしていない。
- ・ 市長のマニフェストにも、学校で給食後に歯みがきをすることを入れていただいたが、なかなか学校に協力してもらえず、うまく推進できていない。

**佐藤委員)**

- ・ 現場の現状としては、歯磨きをする手洗いの場所・数が足りないということや、給食を食べて、休憩して、授業、部活動をしてとなると、全員が歯みがきをする時間が作れないということがあり、時間と場所の問題で苦慮している。
- ・ 朝食の大切さについては、小学校、中学校で、学校保健委員会や毎月の保健だよりを通じて、伝えるようにしている。感覚としては朝食を食べる人は少しずつ増えているかと思う。朝、保護者は忙しく、こどもは眠いというせめぎ合いのなかで難

しいところはある。

- ・ 給食の残食率について、食べ残さないようにとは伝えているが、全部食べなさいとはご時世的に言えない。小食の子どももいれば、たくさん食べる子どももいるので励ましながら進めている。

#### 西尾委員)

- ・ 成果指標として「健康経営に取り組んでいる企業数」があるが、小牧市は、市役所として健康経営優良法人に認定を受けている数少ない2市のうちの1つである。
- ・ 小牧市内で、大規模法人で優良法人に認定されているのは3社となっており、健康経営に取り組んでいる企業数が増えると思う。

#### 林田委員)

- ・ 健康経営優良法人ホワイト500に入るのは年々、難しくなっている印象であるが、毎年チャレンジする中で、取り組みは推進しているところである。
- ・ 今回幅広く展開されている方針については、非常に的を射たよい内容かと思う。
- ・ ただ、たばこ、歯、生活習慣病などは、企業として取り組みにくい部分である。市と協力して、市民、従業員の健康を支えていきたい。
- ・ 地域づくりに参加する男性が少ないという話について、私が住んでいる地域でも、男性が参加するという話はなかなか聞こえてこない。サラリーマンの男性にどう働きかけていくかは大事である。
- ・ 朝食について、ネットで調べると、有名人が1日1食しか食べない、1日1食が健康にも良いというような情報があり、若者はそれを見て真似をしている。
- ・ 世間でさまざまな情報が氾濫しているので、それぞれの行動の裏側にどのような理由があるのか分析し、それにあった方策をとっていただければと思う。

#### 青木委員)

- ・ こまき山体操の拠点について、ふれあいセンターで行っているものは地域包括支援センターが後方支援している。
- ・ サロンを含めて地域拠点ができてきている印象はあるが、高齢者は移動手段がなく、行きたいがなかなか行けないという状況にある。
- ・ 「Ⅱ 社会で支える健康づくり」でも、外出支援の取り組みが記載されているので、集いの場を広げていってもらえるとよい。
- ・ 介護予防の拠点やサロンでは、代表の方、参加してくださる方は、同じ人であることが多い。熱心に参加して下さっているのはよいが、次の新しい担い手についても、養成していく必要があると考える。

#### 小島委員)

- ・ オーラルフレイルは、非常に重要な要素である。
- ・ 病院では要介護高齢者の方も多く入院されており、誤嚥性肺炎は多く、高齢者の直接死因でも上位にあがる。
- ・ オーラルフレイルの啓発の対象を60歳以上としているのはよいことである。
- ・ まだ、健康な時期からオーラルフレイルを予防することは、フレイル予防、誤嚥性肺炎の予防につながる。積極的な啓蒙を進めていただきたい。
- ・ P60「6 生活習慣病予防・重症化予防」について、慢性閉塞性肺疾患（COPD）は、疾患としての認知度が低く、国が策定した「健康日本21（第二次）」でも、認知度の目標を80%としていたが、最終報告では20%代だった。
- ・ COPDは、禁煙で予防することができ、治療が可能である疾患であることを広く知っていただきたい。健診受診の機会などを使って、疾患を知っていただけたらと思う。

## 事務局)

- 本日も欠席の山田委員から事前にいただいた意見について、回答させていただく。
- 後期高齢者の健診受診、人間ドックの受診率向上を目指すべきではないかとの意見について、P59 に特定健診の受診率を設けているが、後期高齢者の健康診査の受診率も指標に盛り込んでいきたいと思う。
- 人間ドックについては、対象者（母数）が不安定であり、受診率を出すのが難しいこともあり、数値目標の設定は控えたい。
- 国の「健康づくりのための身体活動・運動ガイド」の中で身体活動の強度を表す「メッツ」という新しい用語がでてきていることについて、健康生きがい推進課で令和3年度から実施している介護予防教室の中ではすでに変えとして盛り込んでいる。
- 具体的には、歩く中でも少し強度のある早歩きを取り入れることで質が高く、また、予防効果が高いウォーキングになるなどの普及啓発を展開している。
- 今後、新しいプランの中でもコラムなどの形で盛り込むなど幅広く周知啓発したいと考えている。

## 3 閉会